

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの未来と安全が第一に守られ、気力・体力そしてチャレンジ意欲を有する自立した生徒集団が、規範意識や公共の精神を尊重しつつ、学校力（学校がもつ総合的な力）を高めていく学校。

- 1・生徒の自主性を育て、自ら判断し、行動でき、段取りする力をつける。
- 2・自尊感情を育て、他の人を大切にする心豊かな生徒集団をつくる。
- 3・保護者や地域の皆さんの期待と支援に実績で応える。

2 中期的目標

1、確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、確かな学力の育成のため、「わかる授業、伸ばす授業」への授業改善をめざす

- ア 生徒が個々の将来像に基づいた学習計画を設定できるよう、選択科目の精選と充実を図るとともに、目標達成を支援する教科特別講習を充実させる。
- ※ 平成 28 年度までに生徒が希望する各方面への進路実現に資する選択科目をグループ化・ユニット化して示せる、無理や無駄のないカリキュラムを再構築する。
- イ ICT 機器やネットワーク環境を充実させ、ICT を活用した授業の実施を推進・拡大する。
- ※ 平成 28 年度には 30% 以上の教員が ICT を活用した授業を実施できるようにする（平成 27 年度 32%）。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度に対する肯定的回答を、平成 28 年度には 85% にする（平成 27 年度 72%）。

2、すべての生徒の夢と志を継続させる

(1) 広い意味でのキャリア教育、人権教育の観点を取り入れた進路指導計画を作成し、学校全体の指導の柱にする。

- ア 現状の学年毎の計画から高校 3 年間を見通した計画へと整理し、さらに大学等への進学後のキャリア状況も織り込んだロードマップを作成する。
- ※ 卒業生の進学後の追跡調査を実施し、その分析結果を反映させた進路指導資料を作成する。それを活用することで、学校教育自己診断のキャリア教育に関する肯定率を平成 28 年度までに 85% 以上にする（平成 27 年度 83%）。
- イ 学習面を危惧することなく部活動ができる仕組みや環境の整備を続ける。
- ※ 平成 26 年度以降も、部活動加入率 90% を維持し、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を平成 28 年度には 80% 以上にする（平成 27 年度 66%）。
- ウ 難関大学・人気大学への進路を希望する生徒を支援する指導体制の充実をはかる。
- ※ 平成 29 年度までに国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者数を卒業生の 50% に（平成 27 年度は 47.4%）。
- (2) 地域貢献・地域連携を通じて生徒に自己有用感をもたせ、地域の教育力向上にも貢献する取組みを実施する。
- ア 近隣施設や小中学校と連携した事業を行うとともに、保護者の人材・地域の人材を積極的に取り入れた取組みを実施する。
- ※ 平成 28 年度までに合計 2 件以上の新規取組みを設定する。
- イ 平成 23 年度から「大阪府使える英語プロジェクト指定校」（EFHS）として積み重ねた取組みをベースとした、将来につながる教育の推進を行う。
- ※ 平成 28 年度までに、のべ 10 名以上の生徒が地域連携によるグローバルな人材育成に関わる事業へ参加するようにする（平成 27 年度 7 名）。

3、生徒理解の促進と相談体制の充実

(1) 生徒を把握し緊密な人間関係を構築するため、個別の指導・相談体制を整備する。

- ア 「生徒への理解を深める」を基本テーマに教職員研修の内容を精選し、教職員のカウンセリングマインドの醸成をめざす。
- ※ 相談室・保健室での相談以外に、多様な課題について生徒が相談できる機会を提供し、平成 28 年度までにチャンネル数を 2 つ以上増加させる。
- イ 生徒会活動を積極的に支援し、生徒からの情報発信によって「自らが考え行動できる牧野高校生」を育成する。
- ※ 生徒会活動・学校行事への肯定的評価を平成 28 年度までに 90% 以上に向上させる（平成 27 年度 86%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>・一般的授業に関しては、進度・内容に満足している生徒が 80% で 8 ポイントの大幅増加となっている。進路関係の講習・補習が適切であるとする生徒は 81% と 3 ポイントの増で、昨年度大幅増であった上に更に増となっているので、継続して取り組みの効果が上がっていると考えられる。その一方で自宅学習時間が 2 時間を超える生徒は 37% で 3 ポイントの減となっており、高校で求められる学習量を確保できていない。高い部活動加入率とのトレードオフではあるが、部活動と学習を両立できる「文武両道」の推進のため、土曜日の活用についても研究する必要がある。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・生徒の学校への満足度は依然として高い(94%でこの2年間変わらず)。</p> <p>・生活指導についても、適切だと考えている生徒が 79% で、微減ではあるが高水準である。昨年度から引き続いて通学時の自転車安全運転指導を強化した結果、登校時の外部苦情は大きく減っているが、それに対する生徒の内心の反発もないと分析でき、学校の指導方針に一定の理解が形成されていると考える。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・学校運営に校長のリーダーシップが発揮されていると回答した教職員が 84% と 4 ポイント増加した。現校長着任から 5 年目を迎え、学校運営方針について適切な理解が浸透した結果の数字と考える。</p>	<p>〈第 1 回〉平成 28 年 7 月 11 日</p> <p>・すべての生徒の夢を継続させていく ⇒ 基礎段階が重要。自分自身としてどう生きていくのかを考えさせる時間を作ってほしい</p> <p>・勉強面、充実している。理系をがんばってほしい。工学系以外も視野に入れてほしい</p> <p>・社会での生命力→正解のない世界での力をつける→正解のないテーマを与えて議論をさせてほしい</p> <p>・地域連携に関わろうとする自主的な意識を向上させる必要あり</p> <p>〈第 2 回〉平成 28 年 12 月 16 日</p> <p>・他校ではボランティアの募集形態を変えたことで参加生徒が減っている。牧野高校では継続して生徒が参加できる仕組みを作っていただきたい</p> <p>・教員の世代間の差を力をつけさせることで埋められる仕組みを作ったらよいと思う。若い先生には、積極的にさまざまな課題をこなすことを通じて、授業改善に繋げていってほしい</p> <p>〈第 3 回〉平成 29 年 2 月 10 日</p> <p>・基本的な生活習慣の指導に対して、生徒の回答で適切であるという意識が増加しているのは、日々の生活指導の取り組みが着実に受け入れられているようなので良いと思われる</p> <p>・一日あたりの学習時間が短い（1 時間未満）生徒数が減少するよう、日々の部活動とのバランスをとっていくよう検討を続けてほしい</p> <p>・学校の危機管理は重要な課題である。緊急時の対応に関する研修や、施設設備の整備にもいっそう努めた方がよい</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、伸ばす授業」への授業改善をめざす。</p> <p>ア 選択科目の精選を図るとともに、教科特別講習を充実。</p> <p>イ 校内ネットワーク環境や情報機器の整備をさらに進め、ICTを活用した授業の実施を推進。</p> <p>ウ 授業アンケートを活用した授業改善を推進するとともに、生徒には「自分にとってためになる授業」をみきわめる力を育成する。</p>	<p>ア・改訂したカリキュラムを基に、進路実態に即した選択科目のユニット化モデルの研究・作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で基礎力養成・応用力伸張のための特別講習と生徒個々に応じた特別指導を実施し、生徒の進路実現を支援する。 EFH 指定校の経験を活かし、受験を推奨する検定試験拡大と、対応する指導を強化する。 <p>イ・学校のネットワーク環境をタブレット型PCに対応できるよう整備を進め、タブレット型PC用のソフトウェア資源を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員のICTスキルの向上に努め、ICTを活用した授業を校内で奨励する。 進学状況を文・理のバランスがとれた形にするため、理系（特に情報工学や医療系）に興味関心を持つ生徒のための補習や説明会の強化を継続し、ICT関連資格・ロボット工学等関連教材を生徒希望者に利用させる。 <p>ウ・生徒に学習や授業に対する新たな観点を身につけさせるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施する。タブレット型PCをその支援ツールとして活用する。</p>	<p>ア・国公立大学と、関西・同志社・立命館・関西学院・近畿大学等の人気大学進学者数合計 180 名以上。(平成 27 年度国公立 20 名、上記私立大 155 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 受験者 30 名以上。 <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における ICT 関連項目での満足度 60%以上。(平成 27 年度 47.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 理系合格者の比率を 35%以上に。(平成 27 年度 30%) ICT・ロボット関連教材利用生徒数をのべ100人以上にする。 <p>ウ・2回目の授業アンケート項目9(知識・技能向上)の評価値平均を 3.15 以上にする。(平成 27 年度 3.07)</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングによる授業を複数回実施。 	<p>ア・国公立大学進学者(11名)名。人気大学進学者数合計(168名)。(平成 27 年度国公立 20 名、上記私立大 155 名)(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 受験者 0 名(英検 2 級 10 名、準 2 級 30 名)。中学校以来なじみのある英検を受験する傾向が強いので、意識改革を試みる(△) <p>イ・ICT関連満足度 52.5%。タブレット型PC対応の環境整備の前提である府教委のオープンネット関連規定等の整備が年度終盤になったため、学校は昨年と同環境に留まった。今後は必要性の高い教室用プロジェクターの整備を優先したい(平成 27 年度 47.8%)(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 理系合格者の比率(26%)。(平成 27 年度 30%)(△) ロボット関連教材利用生徒数のべ60人。新入生の部活動加入後に参加者を募集したため、参加が五月雨式になった。募集時期の見直しを行い、スタートを早めたい(△) <p>ウ・2回目の授業アンケート項目9(知識・技能向上)の評価値平均 3.15(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「政治経済」「社会と情報」「保健」の3科目で合計 80 時間超のアクティブ・ラーニングを実施(○)
2 すべての生徒の夢と志を継続させる	<p>(1) キャリア教育の観点を含む進路指導を実施。</p> <p>ア 大学等進学後のキャリアを織り込んだ指導の実施。</p> <p>イ 学習面を危惧することなく部活動ができる仕組みの研究と活用。</p> <p>(2) 地域連携を通じて生徒に自己有用感を持たせ、地域の教育力向上にも貢献する。</p> <p>ウ 近隣諸学校・施設との連携事業や、地域人材を活用した取組みを拡大する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校生が大学等卒業後、社会で自己実現している事例を進路指導に活用するとともに、進学先を難易度でなく分野別にグループ分けした自己実現モデルを作成して指導に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関する校内外の研修参加を推奨し、PTAや卒業生、地域団体と連携することでキャリア意識の醸成に取り組む。 <p>イ・部活動参加生徒が、土曜や放課後に学校で自主学習できる仕組みを発展充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動に加えて学習面等でプラスαの成果をあげた生徒の顕彰を継続する。 <p>(2)</p> <p>ウ・近隣小中学校等との交流・連携を安定・充実したものにするとともに、英語関連以外にも拡大する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援学校や福祉施設との交流事業、地域貢献活動に参加する生徒を増やし、自己有用感を得させる。 創立 40 周年記念事業を契機として対地域イメージアップが実現できたどうかの検証に加え、生徒自身も「牧高生としての誇り」「牧高生としての品格」を体現することについて考えを深められるような指導を行なう。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校教育自己診断におけるキャリア教育関連項目での肯定率 85%以上をめざす(平成 27 年度は 84.2%)とともに研修参加のべ人数(保護者を含む)100人以上を維持する(平成 27 年度 104 人)。</p> <p>イ・1日あたりの自主学習参加者平均 30 人以上。(平成 27 年度 25 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間生徒顕彰者数 30 名以上。(平成 27 年度 30 人) <p>(2)</p> <p>ウ・拡大した連携事業について各事業複数回実施を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した生徒対象の講演や交流事業等の取組みを6回以上実施。(平成 27 年度 6 回) 牧野高校に対する各分野の期待度やイメージの浸透度を学校説明会等でのアンケート調査で確認。進路関係では 90%以上を維持。(平成 27 年度 91.1%) 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校教育自己診断におけるキャリア教育関連項目での肯定率 86%(○)</p> <p>イ・1日あたりの自主学習参加者平均 25 人。次年度は顧問から一層の奨励を行いたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間生徒顕彰者数 10 名。昨年度は周年行事関連での顕彰者が多かったが今年度は通常のペースに戻ったために人数減となった。次年度は行事に左右されない文武両道関連の活動を奨励したい(△) <p>(2)</p> <p>ウ・英語による小学校との連携事業は2校各3回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した部活動マネジメント講習、地域青年会議所と連携したグローバルユースリーダー研修、地域主催工芸作品展示交流、地域ECフェスティバル参加等の交流取組みを計8回実施(◎) 牧野高校に対する進路関係を中心とした期待度は 88%。指標には達しなかったが、高い水準であるので、今年度分掌再編で創設した総務部を活用して、中学校に対して焦点化した情報発信に努めたい(△)
3 生徒理解の促進と相談体制の充実	<p>(1) 「安全安心な学校づくり」を進め、個別の指導・相談機能を強化する。</p> <p>ア 「生徒理解を深める」ための教職員研修を精選し、カウンセリングマインドの醸成をめざすとともに、心身の健康管理体制の充実にも努める</p> <p>イ 生徒会活動等に積極的に支援し、生徒からの情報発信によって「自らが考え行動できる牧野高校生」を育成する。</p>	<p>ア・「安全安心で、人に優しい学校づくり」に向けて、バリアフリー、ジェンダーフリー、ユニバーサルデザイン、エコスタイル等を含む意識向上のための校内研修を実施する。また、前年度の学校教育自己診断結果を受けて、校内施設設備でこれらに関わる部分が不十分であれば迅速な改善に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のカウンセリングマインド醸成に資するため、校内外研修への参加を引き続き奨励するとともに、SCや保健部・学校保健委員と連携して研修自体も活性化する。 生徒の健康課題を的確に把握するため、総合的な情報収集・健康管理体制を作る。 <p>イ・創立 40 周年を機に進めてきた改革について、その有効性を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念事業の企画・立案・準備等のプロセスに関わった生徒に対し、「自らが考え行動できる牧野高校生＝自尊・自浄・自律の精神を体現する者」としての自覚を促すことで、新たなリーダーとして生徒会活動等の支えとなるよう育成する。 	<p>ア・「安全安心で、人に優しい学校づくり」に関連する校内研修を実施する(2回以上)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個の支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者のべ数 70 人以上(平成 27 年度 100 人以上)。 生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率 80%以上。(平成 27 年度 70.3%) 他府県の健康課題に関わる情報をも収集できるレベルで有効なチャンネルを新たに獲得する。 <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果の改革関連事業に対する肯定率を 70%以上に。</p>	<p>ア・「安全安心で、人に優しい学校づくり」に関連する校内研修を実施する(2回以上)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個の支援に資する発達障害スペクトラム・不登校支援関係研修や子宮頸がんワクチン(HPV)の副反応関係研修への参加者のべ71人(○) 生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率 71%(△) HPV 関係情報を収集できるチャンネルは教員個人レベルでとどまった。厚労省の委員経験がある教員がいるので、その教員を中心にチャンネルの開拓に努めたい(△) <p>イ・カリキュラム改革に対する肯定率 75%、施設設備充実に対する肯定率 68%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機会をとらえて、「自らが考え行動できる牧野高校生＝自尊・自浄・自律の精神を体現する者」というコンセプトの定着に努め、新生「牧野高校」として時代の変化に対応できる学校の生徒たるよう教育を進める。